

11月20日のウクライナ情報

安齋育郎

①こうなるんかなあ？(2024年11月17日)

ウクライナ兵たち、真の敗戦を隠すために仲間を穴に埋める。

<https://x.com/i/status/1858015558857539836>



<https://x.com/Z58633894/status/1858015558857539836?s=09>

②ゼレンスキー大統領、バイデン大統領がロシア国内へのより深い攻撃に米国供給のミサイルの使用を承認したと発言(2024年11月18日)

米国がロシア国内の奥深くを攻撃するために米国提供の長距離ミサイルを使用するという待望の決定に対するウクライナの最初の反応は、非常に抑制されたものだった。

<https://youtu.be/UFYCSVYdIAU>



<https://www.youtube.com/watch?v=UFYCSVYdIAU>

③トランプ効果:EU、ウクライナに対する姿勢を再考 | 最新ニュース(WION、2024年11月18日)

ロイター通信の報道によると、ハンガリーのビクトル・オルバーン首相は、欧州市場のエネルギー価格を下げ、ロシアの競争力を高めるために、欧州連合(EU)に対し、ロシアに対する制裁を見直すよう求めた。

※安齋注:後編のインタビュアーとそれへの答えがずれているように感じます。

<https://youtu.be/WHLHI27ZkDA>



<https://www.youtube.com/watch?v=WHLHI27ZkDA>

④コット・リッター:ウクライナのクルスク大惨事は NATO がロシアの Su-57 に太刀打ちできないことを証明した！(2024年11月17日)

スコット・リッターがウクライナの戦場の最新状況を詳しく解説します。クルスクでの壊滅的な損失が重大な緊張を浮き彫りにしています。たった1日で70台の重機と430人の兵士が失われ、ウクライナは前例のない課題に直面しています。ロシアの新たな戦略と、ゲームチェンジャーとなる Su-57 を含む先進技術が戦争をどのように変えているのかをご覧ください。地政学的な影響と、これが NATO の将来の立場にどのような意味を持つのか、最新情報を入手してください。

<https://youtu.be/5NU3u8l2Srk>



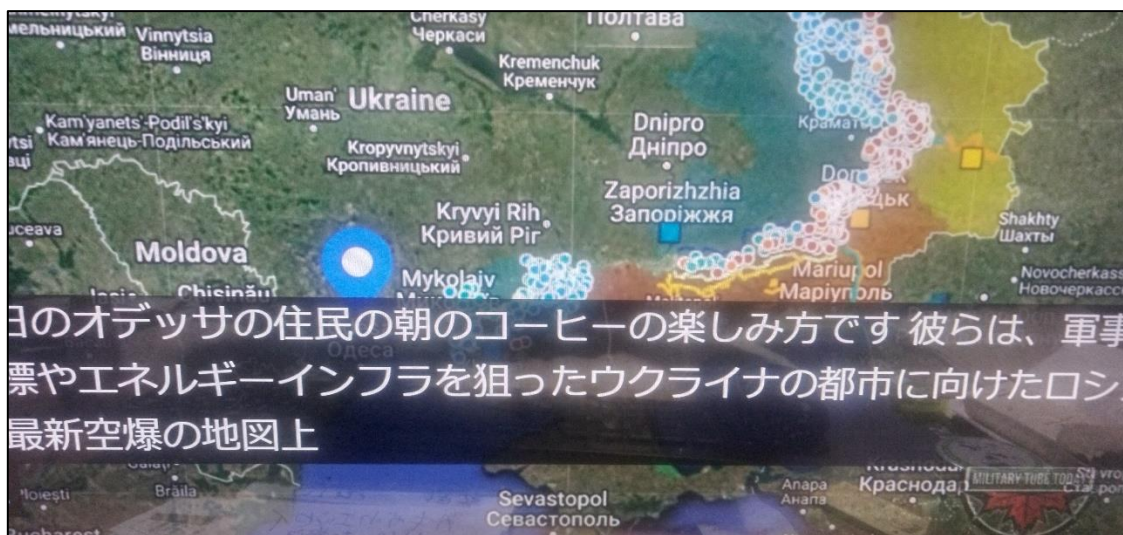
<https://youtu.be/5NU3u8l2Srk>

⑤オデッサ住民、ウクライナの都市に飛来するミサイルに驚愕(2024年11月18日)

今日の軍事チューブ - オデッサの住民は今日、朝のコーヒーをこのように楽しんだ。彼らは、ウクライナの都市に向けて最新のロシアの空爆の地図に写っているミサイルに驚いた。ミサイルは軍事目標やエネルギーインフラを狙っていた。2024年11月17日の朝の大規模攻撃開始の画像が地元のソーシャルメディアに投稿され、オデッサの住民は、ミサイル飛行中にこの地域の上空を飛んでいるのが見られ、すべての目標に命中したとされる海上発射型カリブル巡航ミサイルを少なくとも5発数えた。これは、Tu-160、Tu-95 爆撃機、MIG-31K 戦闘機を使用したこれまでで最大の攻撃の1つだという人もいる。冬が始まる中、キエフ政権の目標に向けて120発のミサイルと90機のドローンの集中砲火の一部である神風ドローンを含むイスカデル、キンジャール、カリブルミサイルなどの攻撃が行われた！ウクライナの情報筋によると、被害を受けた地域には、リウネ、ポルタヴァ、ザポリージャ、ドニプロペトロフスク、クリヴォログ、キエフ、オデッサ、ヴィーンヌィツヤが含まれる。しかし、ロシアから公式な確認がないことは注目に値する。地元メディアは、ウクライナ北西部の都市リウネのエネルギー施設にミサイル3発が命中したという報道をしている。ロシアのKh-101巡航ミサイル1発がロベンスカヤ330発電所に命中し、ウクライナの防空システムは機能停止または消失した！地元当局は、少なくとも一部の攻撃が電気設備に命中し、同市の火力発電所数か所に「深刻な被害」をもたらしたと報告した。

一方、オデッサのウクライナ当局は、日曜朝の爆発を迅速に報告し、被害の画像を公開した。攻撃で2人が死亡、17歳の少年1人が負傷し、同地域の多くの地域で電気、水道、暖房が使えなくなった。「オデッサは朝のストライキ後、非常に厳しいエネルギー状況に陥っています。病院やボイラー室は発電機に切り替えましたが、発電機が足りないためボイラー室の中には稼働していないところもあります。この問題は現在、電気技師と解決中です」とトルハノフ市長は語った。オデッサ市議会自体では、市長が公開したビデオから判断すると、シャンデリアが点灯し、タブレットが作動している。

<https://youtu.be/GBFWiHNPVkc>



<https://www.youtube.com/watch?v=GBFWiHNPVkc>

⑥米国、露領奥深くへの長距離ミサイル攻撃を許可＝米紙(内容既報、2024年11月18日)

米国のバイデン大統領が、ウクライナに対し、米製長距離ミサイル「エイタクムス(ATACMS)」による露領奥深くへの攻撃を初めて承認したと、米紙ニューヨーク・タイムズが情報筋の話として伝えた。

報道によると、バイデン政権の決定は、露クルスク州に北朝鮮の軍人が駐留しているとされる情報と関連しているという。

同紙はこの決定が次期トランプ政権に代わる2ヶ月前になされたもので、「米政策の重大な変更」と強調。また、この問題に関する大統領顧問らの考えは分かれていたという。

プーチン露大統領はこれまでに、攻撃許可はNATOによる直接参戦の決定を意味するとの認識を示し、「ロシアは生み出される脅威に基づいてしかるべき決定を下す」と警告。詳細は明かしていないが、露国防省はその場合の対応策をすでに練っていると明かしていた。



<https://sputniknews.jp/20241118/19324445.html>

〈関連情報〉

ロシアへの長距離攻撃許可はトランプ政権への妨害行為(トランプ・ジュニア、2024年11月18日)



バイデン大統領はトランプ政権発足前に第三次世界大戦を引き起こし、ウクライナ危機の外交による解決を阻止しようとしている。

トランプ・ジュニア氏は米国がロシアへの長距離攻撃を許可したと報じられたことを受け、SNSに

投稿し、第三次世界大戦の始まりを危惧した。

「(軍産複合体は)これで数兆ドルの資金を得るわけだ。人命はどうなるかだと？知ったことか！というわけだ」

共和党支持者の間では、国際情勢を最悪な状態にまで悪化させたうえでトランプ政権に引き継ぐことが民主党の目的だと批判する声が上がっている。

実業家イーロン・マスク氏はこの報道に関して、「民主党は戦争を好む」と主張するユーザーの投稿に反応し、「その通りだ」と同意している。

<https://sputniknews.jp/20241118/19325188.html>

⑦同じく長距離ミサイルを保有する英仏独の反応は(2024年11月18日)

英国とフランスは米国に続き、ロシアへの長距離攻撃を許可したと仏メディアは報じている。一方、ドイツはロシアとの交渉を続ける姿勢を示している。

英仏は長距離ミサイル「ストームシャドウ」による攻撃を許可したと報じられているが、米国は英仏の攻撃を許可していないとの情報もある。米メディアによると、このミサイルには米国のプログラムが使用されており、ホワイトハウスの許可抜きには使用できない。

米国のエイタクムスは射程が 300 キロに制限されているのに対し、英仏のストームシャドウは射程が最長 560 キロとなっており、モスクワに到達する可能性がある。

ドイツ国防省はロシアとの対話を優先するとし、攻撃許可の動きは見せていない。ただし、「緑の党」出身のハーベック経済相は年明けの議会選挙戦で勝利して首相に就任した場合、長距離ミサイル「タウルス」による攻撃を許可すると発言し、タカ派の支持を集めている。



https://sputniknews.jp/20241118/19324915.html?rcmd_alg=collaboration2

⑧【視点】日本の外交政策には頭痛の種(2024年11月18日)

石破首相と中国の習近平国家主席の初の首脳会談は 11 月 15 日、ペルーの首都リマの開催の APEC 首脳会議のフィールドで成立した。これに引き続いて、今度はブラジルで G20 サミットが開催される。

日本にとって、対中関係、対米関係はどちらも同じくらい重要だ。だが、トランプ氏が大統領に就任

後、中国からの輸入関税を大幅に引き上げる意向を実現させれば、米中関係は貿易戦争の様相を呈する。日本政府は、まさにこうした理由から中国が日本との二国間対話の確立を積極的に模索し始めたと考えている。11月下旬、東南アジア諸国の国防相会合が予定されているラオスで日中防衛相会談の実施がすでに決まっていることも偶然ではない。日本は対中関係を改善しながら、同時に対米関係の強化もできるのだろうか？

人文大学東洋学部の職員、ドミトリー・ミレーエフ氏は日本の外交政策にとってはこれは、頭の痛いところだと指摘している。

「これは、石破首相が演説の度に日米関係強化の必要性を述べていることと関連している。今回のAPECフォーラムのフィールドで行われたブリンケン米務長官と岩屋毅外相の会談でも、両国ともに日米関係のさらなる強化を希求していることが確認された。こうした一方で、日本と中国は互いに最も重要な経済パートナーであり、両国の福祉と経済発展の原動力は、二国間関係が政治的に正常な環境にあることに大きく依存している。これは、現時点の石破氏にとってより重要性が高い。なぜなら先の選挙で自民党が低調だったのは、日本の有権者が国の経済発展と国民の福祉を優先させたからである。

このため日本政府はなんとしても中国か米国か、どちらか一方を選択することを避け、日中の歴史認識の違いといった鋭利な問題を滑らかにすることで、両方の国との関係のバランスを取ろうとするだろう。ひょっとすると日本政府は、トランプ氏が中国の経済発展を抑制するよう日本にかけてくる圧力を修正し、同時に自国のために譲歩を引き出そうとまでするかもしれない。これまで米国は、経済における日本の特殊な国益や米国との関係の重要性を考慮し、日本に譲歩してきた。しかし今や、トランプ大統領が反中国を明確に志向するチームを政府内に形成していることを考えると、前もって何かを予測することは難しい。こうなると日本はまず米国の政策がどう変わるのかを注意深く観察し、それから具体的な決断を下すだろう」

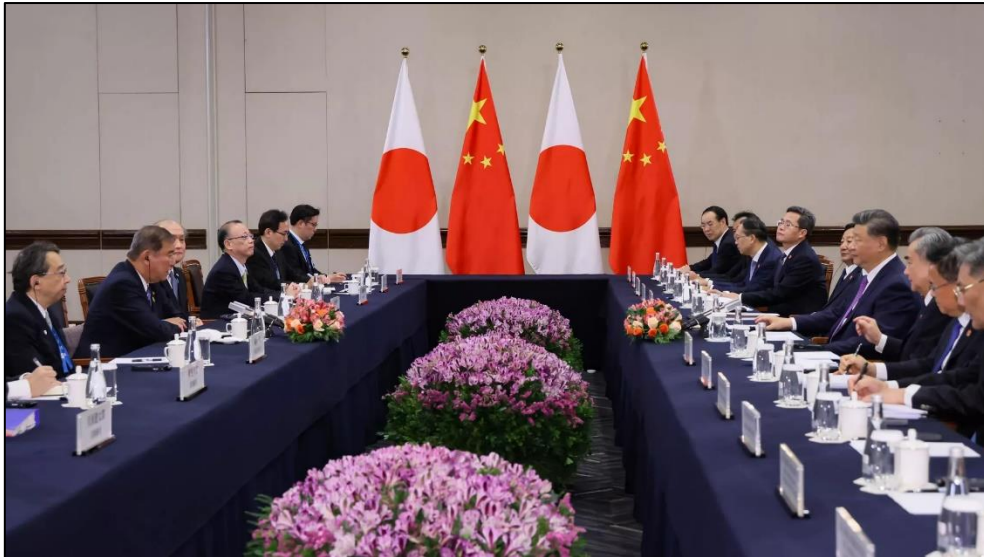
ロシア高等経済学校、東洋学スクールのアンドレイ・カルネーエフ校長は、日中関係は振り子のような性格を帯びており、現在は比較的安定しているものの、これも多くの要因に左右されるとして、次のように語っている。

「日中間の緊張度が下がり、より建設的な関係を築く条件が現れていた時期もあった。その逆に、どちらか一方の側の行為から、関係はまた悪化にむかうこともあった。安倍政権の最後の数年あたりから、日中関係は比較的安定しており、日本はもちろん、日本は中国と互惠的な関係を続けたいが、米国からも逃げようがない。

日本にとっての今の状態はまだ未知数が多いといえる。例えば、トランプ氏が執念深く中国を封じ込めようとするのか、習国家主席との会談で相互の警戒心のレベルが低くなるのか、私たちには見えない。また、石破首相とトランプ氏、石破首相と習国家主席との関係がこの先どうなるかもわからない。多くのことは、それぞれの人物の外交の柔軟性とどこまで妥協の意思があるかにかかっている。

ただ、日中の間に意見の相違があっても、これが両国間の貿易拡大を妨げるものではないことだけは言っておきたい。加えて、日中両国はアジア太平洋地域が経済的にさらに成長を遂げること、そしてそのためには緊張の激化を防ぐ必要があることにも同様に興味を持っている。まとめると、両国は客観的には協力関係の継続に関心があるが、その際に、日本がそれほど米国に依存しているかを無視す

ることはできない。したがって、この問題はかなり複雑で、多くの要因に左右される」



https://sputniknews.jp/20241118/19324566.html?rcmd_alg=collaboration2

◎オデッサにゲラン 2 が到着し、ウクライナの対空砲がトラブルに巻き込まれる様子をご覧ください(2024 年 11 月 17 日)

MILITARY TUBE TODAY - 動画はビデオゲームのように見えるが、ウクライナの防空軍は、2024 年 11 月 15 日金曜日の夜にオデッサ地域にやってきたロシアの神風ドローン、ゲラン 2 に対抗して懸命に働いている。ソーシャルメディアで共有された動画には、オデッサ港防衛のために配置されたドイツのゲパルト SAM であるウクライナの対空砲が、ゲラン 2 ドローン、いわゆるシャヘド 136 を撃退しようとする瞬間が映っている。ドローンの群れが再び標的を攻撃したのだ。ウクライナの対空砲火は、西側諸国から供給される物流と軍事ハードウェアの中心地である港の上空を照らしている。ロシアの攻撃のもう一つの重要な側面は、武器と弾薬の保管と配布に使用される隠された物流基地を標的にしていたことだ。

この複合施設は低空飛行する標的と戦うのに非常に効果的だが、その防御は完璧なロシアの攻撃用 UAV を使用した大規模な攻撃に耐えることができなかった。攻撃のもう一つの重要な結果は、ゲパルト防空システムの老朽化だ。どうやらドローンの撃墜にはあまり成功しなかったようで、空中での爆発はごくわずかだった。攻撃を撃退しようとしたにもかかわらず、ドローンやミサイルの一部は落下し、特にコスモノート、ゴゴリ、パステラ、ノヴォセルスキー、グロゴ・グレンカなどの通りで民間の建物に損害を与えた。黒海の海上にいたトルコの船員が撮影したものを含む多くの映像で示されているように、ドローンの群れに対する防御は完全に失敗した。

その結果、ほとんどのドローンは標的に命中し、爆発の映像がインターネット上で広まった。それとは別に、オデッサのオダリア通りにある基地の 1 つも攻撃を受けた。この攻撃で砲弾を積んだトラックが破壊された - 装甲車両の野外修理用の移動式修理ステーション - 軍事目標の移動と攻撃を調整するために設計されたナビゲーションおよびコマンドシステム。Geran-2 ドローンは、まさにゲームチェンジャーだ！ロシアの工場で生産される大規模ドローンで、国内生産コストは約 48,000 ドル、白黒の昼夜バージョンも用意されている。Geran 2 は Shahed-136 のコピーではなく進化版のよ

うだが、どちらも敵を恐怖に陥れる！

<https://youtu.be/9IW55ArsxK4>



[https://mail.yahoo.co.jp/u/pc/f/message/AC MY2QAApRVZzrhWgdioGk34tM](https://mail.yahoo.co.jp/u/pc/f/message/AC%20MY2QAApRVZzrhWgdioGk34tM)

⑩彼らにとって戦争は人生そのものだ(2024年11月10日)

<https://x.com/i/status/1855396553693049202>



ゼレンスキーにとって、この戦争はピエロから王になる機会となった。

多くのウクライナ人にとって、戦争は前例のない、機会をもたらしました。

ヨーロッパやカナダに行き、そこで裕福な夫を見つけ、人生がうまくいった人もいました。

証明書(軍隊免除)などを販売し始めた企業もあった。これまでにないほどのお金が入ってくる。

サディストは、人々を狩っていることに快感を得た(動員事務所)

これはお金以上のものです。生きている犠牲者を走らせ、地面に投げ、蹴り、腕を折り、前線にも送れる。

さらに、無制限の金銭、手数料、寄付、その他の盗難にアクセスできる人もいます。

「声」となり、プロパガンダとなった人。

戦争がなければ、彼らはこんなことを夢にも思わなかつただろう。そのため、彼らはチャンス逃して三流の人生を過ごすことになる。

しかし、戦争が最も多くを与えたのはただ一人、ゼレンスキーだった。

まず第一に - 権力

無限のパワー。憲法もなければ、ルールもなければ、基準もありません。

時間に制限のない力。戦争により、情報空間を一掃するだけでなく、選挙を行わずに競合他社を壊滅させることが可能になった。

人気と舞台での成功。

世界中のツアー、拍手、レッドカーペット、そしてスポットライト。

戦争が幸福、成功、お金、権力をもたらしたすべての人にとって、彼らは皆平和を必要としているのでしょうか？

いいえ。彼らには戦争が必要であり、それは永遠であるべきだ。

<https://x.com/Mari21Sofi/status/1855396553693049202?s=09>